

新・向山洋一 実物資料集

第4巻

社会科「厚みのある教材研究」とは

サンプル版

ver.20210913

※本ファイルはサンプル版です、実際刊行されるものと内容・仕様等が異なる場合がありますことを予めご了承ください。

※図版等の解像度は、インターネットを通じた画面表示に最適化した低解像度のものです。実際の印刷物は高解像度の図版を使用して印刷いたします。

新・向山洋一実物資料集 第4巻 目次

はじめに 向山洋一	1	解説コラム10 雪小モデル「写真の読み取り表」は2種類存在する	64
解説 事実に基づいて法則性を吟味する向山型社会科授業の秘密 谷 和樹	6	(3) 指導案検討 各学年20分 1990.11.22	67
1. 有田・向山の立ち会い授業 — 事前準備・当日に使った向山ノート—	7	解説コラム11 学校の研究を「子どもの事実」から組み立てる	69
(1) 実録 立ち会い授業前の教材研究メモ	8	(4) 雪小モデル「写真の読み取り表」の構想（下書き）②	70
解説コラム1 「有田・向山の立ち会い授業」のもととなった教材研究ノート	13	解説コラム12 研究紀要にある「写真（類）読み取り意見分類表」	72
(2) 立ち会い授業前 事前授業の記録		(5) 研究協議 1990.11.28 向山 雪小モデルの解説	73
① Y学級 1984.11.21 4校時	14	解説コラム13 「現場で使いやすいのがよい」という視点	77
② K学級 1984.11.24	16	(6) 研究推進委員会 1990.12.4 / 授業の構想メモ 1990.12.15	78
解説コラム2 向山洋一氏の立ち会い授業の事前授業の記録	17	解説コラム14 授業の骨格「資料と発問」についての思考メモ	80
(3) 立ち会い授業後の検討会（向山のメモ）	18	(7) 写真をどうするか 発問の検討 1990.12.6	81
解説コラム3 向山氏の指導案に「本時のねらい」がないのはなぜか	26	解説コラム15 「分かったこと・気づいたこと・思ったこと」の発問だけが 雪小モデルではない	85
(4) 村上小学校での公開授業 1987.12.5 全体会の記録 他	28	(8) 研究推進委員会 1990.12.15 「用語の統一」他	86
解説コラム4 酒井式と公開授業・研究会のつながり	36	解説コラム16 授業は討論の形になることをあこがれる	87
2. 向山実践「環境サイクル図」はこうして生まれた 1991.1.26 の記録（47歳）		(9) 雪小モデル 項目の検討 1990.12.21 / 授業メモ 1991.1.9	88
— 社会科 研修・研究ノート 1987.12～1988 —	37	解説コラム17 読み取り表の真骨頂	90
(1) 研究授業後の検討会 「教師としての精神の緊張感」 1987.12.9	38	(10) 新聞の読み方「5W1H」	91
(2) 第一回全体会 1988.5.17	41	解説コラム18 「必要な情報だけを取り出し、整理する力」を育てる	93
解説コラム5 教師の生き方・社会科授業の原理：枝葉から根っこへ ～メモにも自分の考えを形にしていこう～	42	(11) 向山研究構想メモ 1991.1.8	94
(3) 授業構想メモ 1991.1.26		(12) 講師の古川氏の話 「評価」と「評定」	96
① 公害との対比	43	解説コラム19 評価と評定の違いを意識した具体的な授業展開や発問例	97
② 二酸化炭素	44	(13) 公開発表最終チェック 1991.1.14	98
③ ゴミ	45	解説コラム20 研究授業はテーマを限定し、時間どおりに終了	100
④ リサイクル	46	(14) 環境の授業メモ オゾン 他	101
解説コラム6 研究会授業前夜に教育界初のサイクル図がふってくる。 その経過が示された貴重な思考および研究過程である。	47	(15) サイクル図 / 「資源ごみ」について	105
⑤ 江戸のサイクル	48	解説コラム21 子どもにとって、ひと目でわかる様々なサイクル図の提案	107
⑥ 環境サイクル図ともうひとつのサイクル	49	(16) 講演の準備メモ	108
⑦ 研究発表当日の授業構想 他	50	解説コラム22 講演会も授業もいくつかのユニットで組み立てるから飽きない	113
解説コラム7 江戸の循環型社会がサイクル図の「プツン」「お助けバイパス」につながる	52	(17) サイクル図（構想メモ）	114
解説コラム8 書き足されているところが授業の本質である	54	解説コラム23 環境問題をひと目で理解させるためのシンプルなサイクル図	116
3. 学校の研究をどうすすめるか — 社会科研究 公开发表ノート 1990 —	55	4. 社会科学習指導案「雪の多い地方の暮らし」 1990.2.22	117
(1) 教師の「リーダー論」 / 指導者の条件	56	(1) 「研究主題」と「指導計画」について	118
解説コラム9 教師の資質としての統率力	58	(2) 「研究テーマ」について	120
(2) 雪小モデル「写真の読み取り表」の構想（下書き）①	59	解説コラム24 向山実践「雪国の暮らし」を読み解く指導案	124
		(3) 「児童の実態」と「本時の指導」について	126
		(4) 「雪国の暮らし 実態調査1-2」	128

解説コラム 25 学校や子どもの実態に基づいた授業とはどうあるべきか	132
5. 「工業地帯の分布」を紐解く ― 社会科研究授業 教材研究ノート ―	133
(1) 斎藤氏の授業に欠けているもの	134
(2) 指導要領（社会5年）の読解 1980.9.16	
①指導要領 社会5年	135
②工業地帯の分布のようすを理解する	136
(3) 目標の設定 他	138
解説コラム 26 「資料活用の基礎能力」を育てる授業構想	140
(4) 小川氏研究授業 検討視点からの検討 1980.10.1	141
解説コラム 27 教科を超えた授業検討の視点	145
(5) 東大和第一小学校 向山の授業分析と代案メモ 1980.10.21	146
(6) 区社研 講演会「社会科における評価のあり方」古川清行氏 1980.10.30	147
解説コラム 28 講師の挙げた問題点を授業に落とし込む	151
(7) 「どこに分布しているか」という点に注目させるにはどうしたらいいか 1980.11.1	152
解説コラム 29 助言を受け流さず、そこから再度思考する過程が見える	156
(8) 今後の課題 ぎりぎりの教育内容の検討	157
解説コラム 30 授業研究を追究する際の一般的性質を持つ「検討の視点」	159
(9) 圧巻指導案の下書き その1	
①必要なことは子どもの頭の中を次のような質にすることである	160
②単元展開と内容	164
解説コラム 31 記号資料だけで展開される授業への強烈な問題提起	169
③「実態調査」の目的は何か	170
④発想法による社会科学習を構成する五本の柱 1971.8 社会科教育 P55	172
解説コラム 32 実態調査には教師の「教育意図」が必須である	173
(10) 実践	
①予備テスト 1980.10.3	174
②冷害について知っていること 1980.10.4	175
解説コラム 33 仮説を立て、子どもが資料を集め、それを検証していく授業	176
③実態調査2 工業地帯に住んでいる体験 1980.10.7	177
④実態調査2 実地調査 冷害地方 1980.10.11	181
⑤実態調査2 事態調査 仮説化 1980.10.25	182
解説コラム 34 向山氏の懐の深さ、視野の広さがうかがえる	184
(11) 圧巻指導案の下書き その2	
①「目標の設定」と「単元の構造」	185
解説コラム 35 言葉の吟味が活動と目標を具体化し「仮説化」につながる	187
②公開授業当日の「指導案（1980.11.2）」	188

解説コラム 36 中心活動を決め、流れをシンプルにする	190
③「本時の学習」と公開授業当日までのスケジュール	191
解説コラム 37 「本時の学習の目標」の変遷	193
(12) <検討> 1980.11.2	
①ぎりぎりの教育内容は何かをめぐって	194
②授業の道筋はどうかをめぐって	195
解説コラム 38 「ぎりぎりの教育内容」をぎりぎりまで検討	197
(13) 研究協議のために 1980.11.6	198
解説コラム 39 3つの観点から吟味される「教師の意図」	201
(14) 自己学習活動の基礎的能力 実態調査（選択肢）	202
(15) 学年会 1980.9.17	204
解説コラム 40 実態調査にはどのような選択肢が必要か	206
6. 単元での討論の指導 ― 社会科実践 調布大塚小学校ノート 1981 ―	207
(1) 15年戦争 授業の流れ 1981.12.18	208
解説コラム 41 15年戦争 授業の流れ	209
(2) 憲法と政治 1982.1.11～12	212
(3) カードの分類 1982.1.20	214
(4) 多摩川をめぐる問題 1982.1.21	215
解説コラム 42 子どもたちの身近なことから憲法に触れさせる	216
(5) 魚は誰のものか 1982.1.19	217
(6) 水は誰のものか 1982.1.27	219
解説コラム 43 社会科の「見方・考え方」をとらえる展開	220
(7) 多摩川の授業 導入 5年 1982.4.23	221
(8) 向山メモ	222
解説コラム 44 多摩川ひとつで授業ができる教材研究の深さ	223
(9) 「多摩川土地は誰のものか」授業の流れ	224
(10) 研究協議 メモ	226
解説コラム 45 現在でも最先端の「多摩川は誰のものか」	229
(11) 社会的論争を含んだ単元での討論の指導（指導案含む）	230
解説コラム 46 三六〇度回転しながら観察できることを列挙してみよう	242
7. 中国（上海）写真の読み取り構想ノート 1996	243
(1) 授業の流れ 1996.3.22	244
解説コラム 47 向山型の授業は国境を越えて	245
(2) 教材研究メモ	246
解説コラム 48 奇跡のドラマを生んだ「写真の読み取り方」授業ノート	250
あとがき 教材研究ノートから生まれた「巨大な問題提起群」 許 鍾萬	251

事実に基づいて法則性を吟味する 向山型社会科授業の秘密

谷 和樹

社会科の授業は「社会の事実」をもとにする。

事実をできるだけ正確に分析するためには、第一に「数値」が重要である。向山氏のこのノートには、氏が克明に数値を確認している様子がうかがえる。「二酸化炭素の排出量」「ゴミの量」等々、東京ドームやトラックの台数に換算し、イメージしやすくしている。

第二に、そうした数値を含めた社会事象が、全体としてどんな「構造」をしているのか、その共通性をとらえることが重要である。

例えば次のようなものである。

- ①「公害問題」と「環境問題」との違いを6つの視点で整理
- ②「工業地帯」の分布には共通した要素がある

このようなことを知識として整理していったら、やがて一種の法則性のようなものに到達する。

向山氏の社会科授業における代表的な提案を挙げるなら、次は必ず入るだろう。

- (1) 自然から資源を取り出し、また自然へと還っていく「環境サイクル図」
- (2) 「写真類」から情報を読み取らせる「写真の読み取り～雪小モデル」

上に挙げた「数値等の事実」「社会事象の共通性」「社会事象間の法則性」といったものを、向山氏はどのように意識して授業をつくらうとしていたのか。

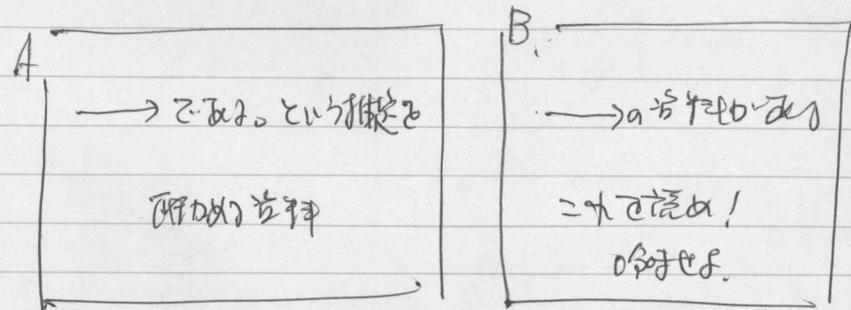
その向山氏の社会科授業における思考方法を垣間見ることができる貴重な一次資料がこのノートである。

1. 有田・向山の立ち会い授業 — 事前準備・当日に使った向山ノート —

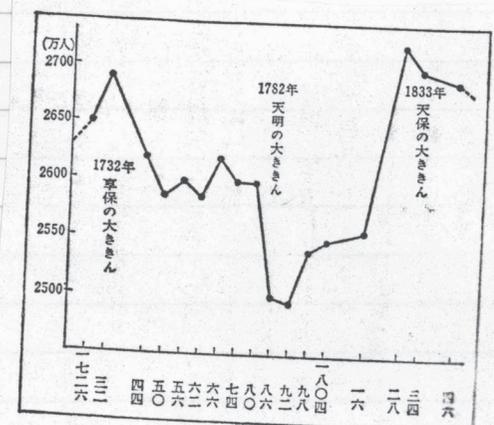


歴史教材研究と
題された立ち会い授業の
ノート 表紙

1. 江戸時代
2. 江戸時代の人口
3. 江戸時代の人口変動

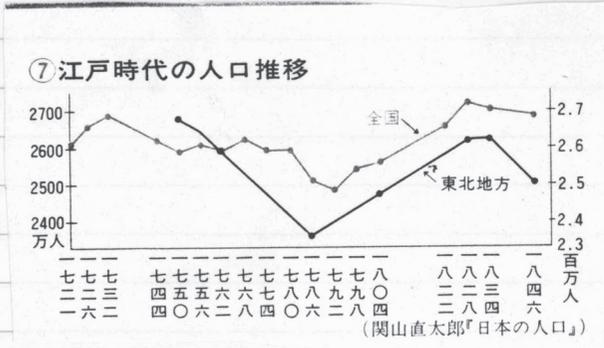


↑
江戸時代の人口変動

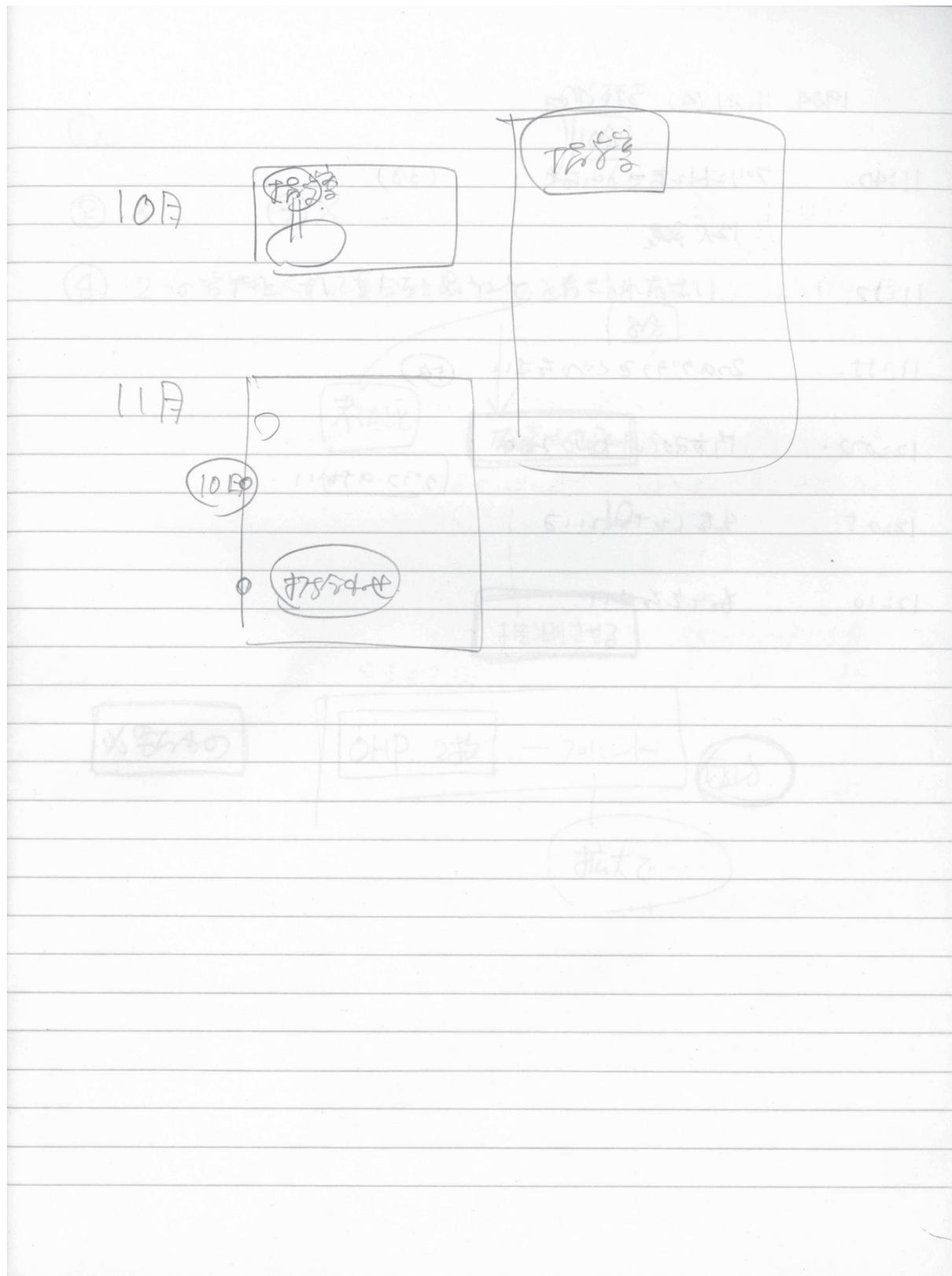


江戸時代の人口の変動
人口はほぼ一定しているが、これは人口が増加するほど生活の余裕がなかったからだ。飢饉のときには激減していることに注意する。(『図説歴史6』学研)

江戸時代の人口
江戸時代の人口変動



(関山直太郎『日本の人口』)



「有田・向山の立ち会い授業」のもととなった 教材研究ノート

松本俊樹

1984年12月1日土曜日。筑波大学附属小学校で2人の教師が研究授業を行った。

1人は有田和正氏。もう1人は向山洋一氏である。この研究授業は「有田・向山の立ち会い授業」とよばれた(以下、「立ち会い授業」)。

当日、北は北海道、南は沖縄まで155名の参観者が訪れた、伝説の「立ち会い授業」であった。

このときの有田氏の授業は、四国の祖谷地方の農家の間取りを教材とし、「農家の人々の生活の知恵」を考えさせる内容であった。

向山氏の授業は、数値は同じで、縦軸の目盛りの幅が違う2つのグラフを比較し、目盛りの幅でグラフの印象が大きく変わることをねらった授業であった。

このときの向山氏の教材研究が残っているのがこのノートである。

9～10ページには、3つ資料がある。9ページの2つが実際の授業で使われている。【江戸時代の人口の変化】のグラフの出典は「図説歴史6 学研」。そして、グラフの横に「文章がおかしい」という書き込みがある。この説明文がおかしいということだ。

なぜかという、説明文では「人口はほぼ一定しているが、これは人口が増加するほど生活の余裕がなかったからだ。飢饉のときには激減していることに注意する。」とあるが、グラフを読み取ってもこのような解釈にはならない。けれども、グラフ制作者からすると、飢饉、百姓一揆、人口の変化が大きく関係していることを強調したい。強調したいがために、このような解説をしていたのだろう。

また、この延長線の縦軸が途中から始まっている。そして、増減が大変大きい。

増減が大きいことから不安定な社会をグラフ制作者は強調したい。そのグラフの意図を向山氏は授業で主張したのである。

向山氏のこうした考え方から多くのことが学べるだろう。